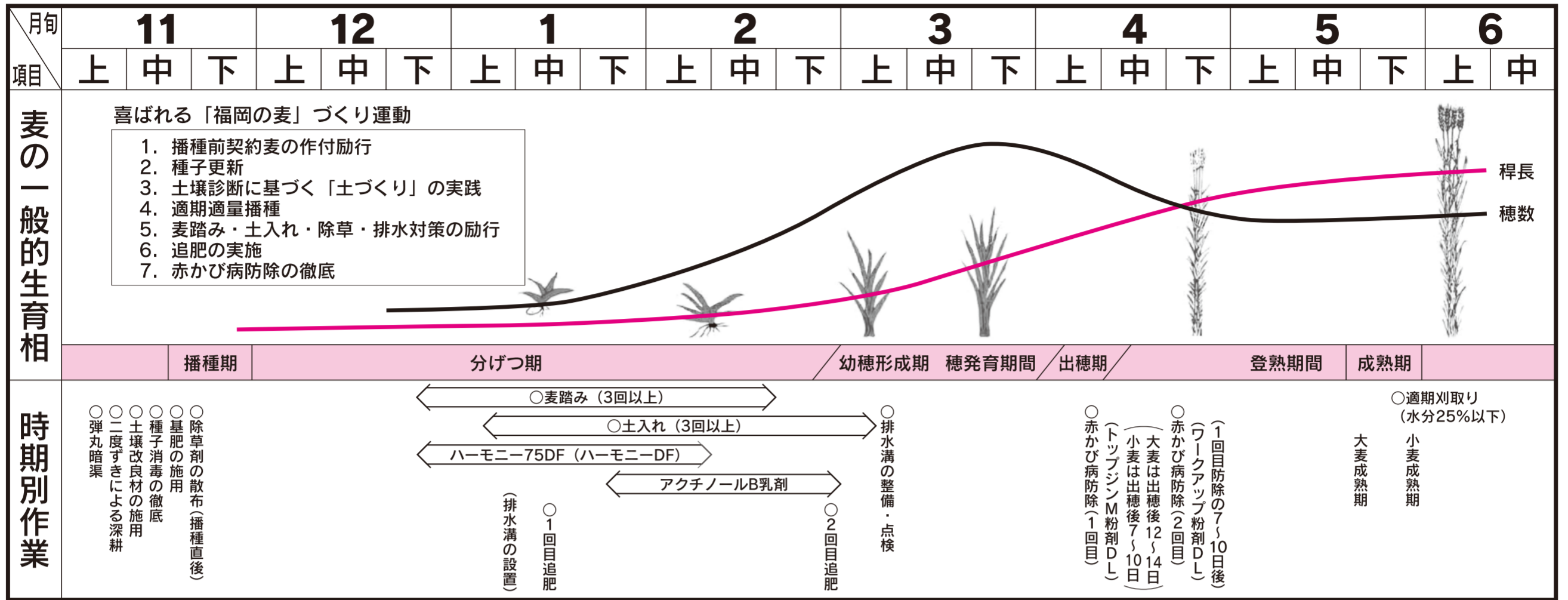


令和4年産 麦類栽培ごよみ

三井地区農業振興協議会
J A み い
久留米普及指導センター



●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底！
※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。
※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。

1. 土づくり

- 土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。
- (1) 適正なpH(6以上)を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当たり200kg施用する。また土壌の酸性が強い場合は、10a当たり炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。
 - (2) 稲ワラ還元及び大地めぐみちゃん(1t/10a当たり)の施用
 - (3) 深耕(作土深15cm目標)

2. 優良品種の作付けと種子更新

品質の良い、喜ばれる麦づくりと種子伝染性の病害の発生を防ぐため、毎年100%の種子更新を行う。

3. 排水対策

湿害を受けやすいので、ほ場内に停滞水を生じないように排水対策が必要です。

- (1) 有材暗渠
- (2) 弾丸暗渠(基準2m間隔)
- (3) 畦立て及び排水溝の整備

4. 適期・適量播種

- (1) 播種適期
小麦 11月15日～25日 (シロガネコムギ11月15～20日・チクゴイズミ11月20～25日) (品質向上の為適期に播種をしましょう)
大麦 11月20日～12月5日 (はるか二条11月20～30日・はるさやか11月25～12月5日)
※大豆の後作は、大麦の作付を行いましょ。
- (2) 播種量 (10a当たり)

種類	播式	ドリル播	バラ播	1升当りの重量
小麦		7kg (5.5升)	10kg	1.3kg
大麦		6kg (5升)	8kg	1.2kg

※厚播は倒伏しやすく、品質が低下しやすい。大豆後作は播種量を減ずる。

- (3) 播種深度
適正深度 2～3cm(大豆の後作は、深播きになりやすいので、注意する。)

5. 種子消毒

裸黒穂病・なまぐさ黒穂病・斑葉病・ヤギシロトビムシ対策

使用薬剤名及び使用方法 (種子10kg当たり)	
小麦	ペンレートTコート 50g (0.5%) + アドマイヤー水和剤 15g (0.15%) 種子粉衣
大麦	トリフミン水和剤 50g (0.5%) 種子粉衣

※ヤギシロトビムシ多発生ほ場(小麦) ペンレートTコート50g(0.5%) 種子粉衣+クルーザーFS30 60ml(0.6%) 塗沫処理(種子10kg当たり)

6. 施肥基準

種類	品種名	基肥	追肥		
			1回目(1月中下旬)	2回目(2月下旬頃)	
小麦	シロガネコムギ	ちくごのめぐみ444 (14-14-14)	40kg	麦追肥一発1号 (24-0-5) 35kg	なし
			40kg	NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg
	チクゴイズミ	40kg	麦追肥一発1号 (24-0-5) 30kg	なし	
			NK化成2号 (16-0-16) 25kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	
大麦	はるさやか(小部地区) 大刀洗地区	ちくごのめぐみ444 (14-14-14)	40kg	麦追肥一発1号 (24-0-5) 20kg	なし
			40kg	NK化成2号 (16-0-16) 20kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg
	はるか二条(北野地区)	40kg	麦追肥一発1号 (24-0-5) 20kg	なし	
			NK化成2号 (16-0-16) 20kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	

※大豆作あとの基肥量は、基準より約5割減とする。又、追肥は生育に応じて加減する。

7. 除草剤使用基準

区分	除草剤名	処理方法(10a当たり)		対象雑草	使用上の注意
		使用量	希釈水量 散布時期		
初期除草剤	リベレーターフロアブル	60ml 80ml	100ℓ 播種後～麦3葉期	初期に発生する一年生雑草	1. リベレーターフロアブル及びリベレーターGの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。 2. 除草効果を高めるため土壌は小さくして鎮圧しは種後早い時期に散布する。 3. 覆土は3cm程度とする。 4. 散布後の大雨は薬害を生じる恐れがある。 5. 風向きに注意して散布しましょう。 6. 飛散の少ないノズルに交換しましょう。
	ムギレンジャー乳剤	400ml 600ml	播種後出芽前		
	リベレーターG	4～5kg	播種後～麦2葉期		
	キックボクサー細粒剤F	3～4kg	播種後出芽前		
中期除草剤	ハーモニー75DF(ハーモニーDF)	5～10g	1月上旬～2月中旬頃(1葉期～節間伸長前)	一年生広葉雑草(ヤエムグラ4節まで)及びスズメノテッポウ5葉期まで	1. 隣接田の野菜・豆類にかからないように注意する。 2. 麦が黄化することがあるが、後で回復する。 3. 使用後の散布器具は消石灰による規定の洗浄を行う。 4. 除草剤抵抗性スズメノテッポウが増加しているほ場では使用しない。
	アクチノールB乳剤	100ml 200ml	70 100ℓ 穂ばらみ期まで	一年生広葉雑草(カラスノエンドウ)	1. 広葉の雑草発生揃～6葉期に有効。 2. ヤエムグラは2～4節期まで。 3. カラスノエンドウ2～3葉期まで。

※雑草防除のポイント

- 初期除草剤は、雑草が発生する前に散布し雑草の発生を抑える。
- 生育期間中は、中期除草剤または、耕種防除(土入れ)を組み合わせ雑草の防除を行う。
- トゲミノキツネボタンが多発生しているほ場では、初期除草剤+ハーモニー剤もしくはバサグラン液剤の体系防除を行う。(但し、バサグラン液剤の使用時期は小麦で収穫45日前まで、大麦で収穫90日前まで。)

8. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量/10a当たり	使用回数	使用時期
小麦(開花期) (出穂後7～10日)	粉剤 トツジンM粉剤DL 4kg	出穂期以降 大麦1回以内 小麦2回以内	収穫前14日まで ※トツジンM水和剤を大麦で使用する場合は収穫30日前まで
大麦(穂揃い後10日) (出穂後12～14日)	液剤 トツジンM水和剤 1000倍 (水100ℓに100g)		

※はるか二条は赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。
2回目防除は1回目防除の7～10日後に行う。ワークアップ粉剤DL 3kg/10a当たり又はワークアップフロアブル2000倍(水100ℓに50ml)/10a当たり
※網斑病対策(大麦のみ) チルト乳剤25 1000倍(水100ℓに100ml)/10a当たり

9. 収穫

穀粒水分が大麥・小麦とも25%以下、大麥では穂首が80%程度曲がった時に収穫する。

品種特性表(JAみい調査データ) 平成29年産～令和3年産の5カ年の平均値

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 m ² 当り	特性および栽培上の留意点
シロガネコムギ	4/3	5/23	79	9.0	402	〇穂発芽しやすいので適期収穫に努める。
チクゴイズミ	4/4	5/25	88	9.0	440	〇倒伏防止のため、多肥栽培は避ける。
はるさやか	4/1	5/12	95	7.0	507	〇適期播種に努める。 〇排水対策を徹底する。
はるか二条	4/1	5/16	89	7.0	513	〇適期播種に努める。 〇赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。

※栽培履歴(管理日誌)はご記入の上、提出してください。

(令和3年9月作成)